

大阪・津田トッパナ遺跡

- 1 所在地 大阪府枚方市津田北町二丁目
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)六月～一九八六年三月
- 3 発掘機関 枚方市文化財研究調査会
- 4 調査担当者 桑原武志・片岡 修・西田敏秀・宇治田和生
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時代、古墳時代前期～鎌倉時代前半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

津田トッパナ遺跡は、枚方市の東部、穂谷川の左岸に位置し、生駒山系より連なる丘陵地の裾部に立地する。丘陵上には室町時代の山城、津田城跡があるほか、周辺には旧石器時代から中世の遺跡が点在している。府立高校の建設に伴い発掘調査が行われた結果、旧石器が出土し、古墳時代から鎌倉時代前半までの遺構が検出され、その間、断続的に集落が営まれていること

がわかった。鎌倉時代に属する遺構としては、掘立柱建物・井戸・土壇・焼土壇などがある。木簡は、溝によって囲まれた建物跡群の北東部に隣接する井戸内から出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「一。屋形山札事 (花押) (字孔)」

右預方城山国中奈良住人。国東 (字孔)

(176) × (41) × 2 882

木簡の年代は一三世紀代と考えられ、左側が欠損しているが、上部が山形になっており、上・下に孔を穿つ。入会山への入山証か。

「屋形山」は、南東約3kmに鎮座する三ノ宮神社の宮山のことであり、神社は屋形大明神とも呼ばれていた。『当郷旧跡名勝誌』に、嘉吉二年(一四四二)の棟札のことが書かれており、「山城国山子トハ津田村ノ領内屋形山ヲ城卅ノ内、松井村内里村戸津村へ当テ作り仕り候故、山子ト申ス(略)」とある。これらの村は、京都府八幡市にあり、それらの村に隣接して奈良の地名も存在しており、本木簡の「奈良」も地名と考えられる。(宇治田和生)

